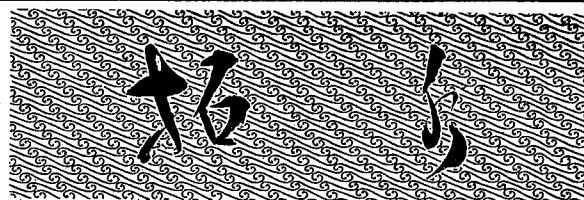


合成洗剤を追放しよう!!

生命のふるさと
海を守るために

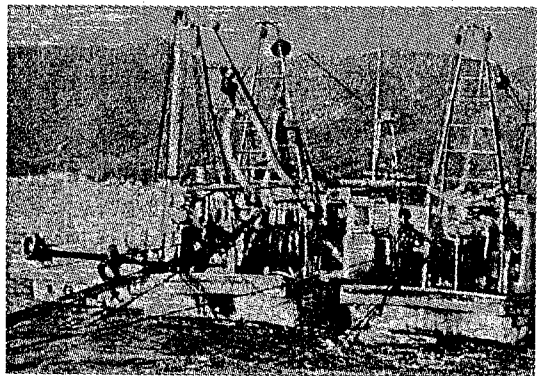


3月号 No.330

一部 10円

(会員の購読料は指導事業経費より支払われています)

発行所 兵庫県漁業協同組合連合会
兵庫県水産改良普及協会
神戸市兵庫区中之島 2-2-1
TEL 681-6954~7
発行人 兵庫県漁業協同組合連合会



今回は昨年十一月に東京で行なわれた、第一回全国漁業協同組合大会決議の「協同活動を生産の場に広げ、資源と漁場の自主管理を行う」「漁漁計画を推進し、計画的漁業経営の推進」を要する漁業経営の目標を家族的生活充足におき、漁業所得の均衡を旨とした実践活動、そして、組合員助成、組合員の漁漁計画の重要報告が、漁協の経営センター山本所長からはこれの基本と各地の事例が報告された。

協同活動を生産の場に広げ、資源と漁場の自主管理を推進

58年度漁業協同組合長、役員研修会が2月9日、神戸市立水産会館大ホールで開催された。この研修会は、漁協組合長、役員等の資質の向上と漁漁事業の総合的な推進を図り、漁協経営の発展に資するものである。今年で二年目となる。

面と推進は漁協が中核となり、関係機関、団体などの協力を得て、漁漁系統運動の中心課題として取り組む必要性が強調された。

て漁業者自らが主体的な責任で生産から販売までの計画、経営の合理化及び生活の改善を図るための漁漁計画を策定し、計画的な漁業経営を行うことであるとして、漁漁計画の策定を要するとして、漁漁計画を策定する地

漁業用燃油タンクの課税措置を阻止

昭和59年度の水産関係税制改正結果

おりました事項のうち、①特定の基金に対する負担金等の損金算入の特例 加されたこと。②漁業者 除とは別枠の所得控除

ワカメ共販はじまる 価格は順調なすべり出し

ワカメ共販は年々盛んになり、生産量も順調な伸びを示しているが、兵庫県漁連ではこれに対応して、ワカメ価格の安定と商品性の向上を図るため、昭和五二年よりワカメ共同販売事業をスタートさせた。

漁場をまもるサテライト

サテライト3月毎週土曜朝10時30分から放送。海の汚染が叫ばれて久しい。それとともに保護の声が高まっているのも事実だ。島国日本にとって、海は命といっても過言ではない。この番組では海の資源保護を訴え、そのためには一人ひとりの注意が必要であることを、シリーズと呼びかける。



美化運動を描いている。3月24日 宇和島を守る青年連 愛媛県宇和島市。ハマチ養殖の投餌による自家汚染にスポットをあてる。養殖のさかんな愛媛県宇和島市で、漁場人間の活動を通して環境の保全にとめる青年連の姿をインタビューしてもらいながら記録したもので。3月31日 クリンアップ大作戦 兵庫県高砂市。兵庫県高砂市の漁協による海底清掃作業の状況を放送する。ゴミの中にはトラックのタイヤや自転車まで含まれ、わたしたちの日頃の行動を考えさせられる。

第四回全国豊かな海づくり大会

大会には、皇太子、同妃殿下のご臨席を予定しているほか、大会会長の衆議院議長、農林水産大臣をはじめ関係者約四千人が参加式典、表彰式、主催団体である三重県(の結果、開催日を本年十月十日に決定した。)

(27.524KHZ) こちら…神戸漁業無線局です!

- 緊急波(非常の時のみ) ●遭難…非常の時(一刻を争う命の綱) ●呼出…Aです Bさん… ●応答…Bです Aさん…

みんなの電波 正しく使おう ●だらだら通信—多くの人が待っている ●ベチャチャ通信—多くの人が聴いている ●ハキハキ通信—多くの人へのお手本です

無形の財産

漁家の預貯金・借入金の適格な状況把握を

第9回漁家経済調査結果

信漁連

漁協貯蓄増強運動の推進にあたり、漁家の預貯金・借入金の適格な状況把握のために、全国規模による漁家経済調査を昭和四十年十月以来隔年に亘って実施してきた。本報においても第九回目を昭和五十八年十月三十一日を基準日として県下一斉に実施した。

本調査は、信用事業の実施漁協に所属する漁家を対象とした調査であり、調査表の配付・回収を漁協役員並びに婦人部役員等に依頼し、信漁連において開票・集計を行ったものである。

組合によっては、なかなか回収困難な事情もあり、また県内の平均を表わしているため、個々の漁協の実態によって相違する面もあるが今後の具体的な運動推進の参考とするため、以下の結果を項目別に記載する。

回収状況
 回収状況として、信用事業実施漁協四三組合中、水産加工協を除く四〇組合、対象漁家数約五、〇〇〇戸について協力を求めた。

・対象漁協四〇組合中、実施漁協は、三三組合(八〇%)で、前回調査時よりも六組合増加した。

・配付枚数四、七四九枚中、回収したものが三、二七枚で、六八・〇%の回収率となり前回(六一・二%)よりも上廻った。

・また、回収票のうち、有効票は二、五八八枚、八〇・二%である。

預貯金漁協利用率は四九・四%

預貯金の状況
 漁協利用状況
 漁協利用状況の県下全体は、四九・四%である。この数値は過去八回の調査を含め二番目に低い水準(最低は昭和四十年一四・二%)であり、系統利用率七〇%以上の



り、反面白紙等の無効票も割合多く、六三九枚、但馬海区七八・五%、淡路海区七一・七%と残念である。

・回収率、有効率を海区別にみると、播磨海区はそれぞれ六一・五%、八〇・二%で、淡路海区は六三・二%、七二・七%、但馬海区七八・五%、八六・三%であり、組合員と漁協との信頼関係がこの調査の協力度でもうかがわれる。

表一 海区別回収状況表 (単位: 組合数、枚、%)

海区別	対象漁協	実施漁協	配付枚数	回収枚数	有効枚数	回収率	有効率
播磨海区	13	10	1,491	917	744	61.5	81.1
淡路海区	22	17	1,616	1,021	732	63.2	71.7
但馬海区	5	5	1,642	1,289	1,112	78.5	86.3
合計	40	32	4,749	3,227	2,588	68.0	80.2

表二 海区別預貯金利用状況の表 (単位: %)

海区別	漁協	銀行	相互銀行	信金信組	農協	郵便局	その他
播磨海区	84.1	13.2	5.8	8.3	4.1	15.2	5.3
淡路海区	30.2	10.3	11.2	23.0	8.0	14.1	3.2
但馬海区	59.1	14.2	1.0	7.4	8.0	7.7	2.6
合計	49.4	13.0	4.6	11.2	6.9	11.3	3.6

に四〇%台が二組合(本、生穂)、三〇%台が六組合と続き二〇%以下が五組合の割合である。

・二〇%前後平均は三・九%減少している。

・但馬海区は、香住町が六八・四%(前回より六・七%増加)と六〇%台を維持したものの、他の漁協は減少し五〇%台が二組合、四〇%三〇%台がそれぞれ一組合となっている。

・また、海区平均利用率は六〇%台を割っているもの五九・一%を占め、半数以上の組合員が漁協を利用し、平残運動のベイスにもなっている。

・今後漁協利用率を高めるためには信用事業の事務整備は勿論のこと、事業運動に沿って信用事業の特性・専門性を発揮し、組合との絆を強化しながら、漁協貯金の必要性を浸透していただきたい。

表三 海区別、経営者・従事者利用状況表 (単位: %)

海区別	漁協	銀行	相互銀行	信金信組	農協	郵便局	その他
漁業							
播磨海区	49.0	13.3	5.4	8.4	4.0	14.8	5.1
淡路海区	30.5	10.2	11.4	23.7	7.9	13.9	2.4
但馬海区	61.9	14.4	1.0	6.4	6.9	6.9	2.5
計	49.9	13.0	5.0	11.3	6.2	11.3	3.3
経営者							
播磨海区	13.2	10.5	18.9	4.1	9.9	28.7	14.7
淡路海区	24.6	12.6	7.0	10.1	8.7	17.4	19.6
但馬海区	50.6	13.6	1.0	10.4	11.3	10.0	3.1
計	46.5	13.4	2.4	10.1	11.0	11.6	5.0
従事者							
播磨海区	13.2	10.5	18.9	4.1	9.9	28.7	14.7
淡路海区	24.6	12.6	7.0	10.1	8.7	17.4	19.6
但馬海区	50.6	13.6	1.0	10.4	11.3	10.0	3.1
計	46.5	13.4	2.4	10.1	11.0	11.6	5.0

経営者・従事者別利用状況
 前述の預貯金の利用状況を漁業経営者、漁業従事者別に分類すれば次のとおりである。

・播磨海区は、銀行(一三・〇%)、信金・信組(一〇・三%)、農協(六・二%)、郵便局(一・三%)、その他(一・三%)の割合である。内容的には、前回同様、家高町及び三原郡の周辺地域が高利用率を示しているが、その他の地域では、五〇%前後の漁協が大半を占めている。

・但馬海区は、銀行(一四・二%)、郵便局(一・六%)、農協(一・〇%)、信金・信組(一・〇%)、その他(一・〇%)、相互銀行(二・四%)の順となっている。

・淡路海区は、相互銀行(二四・七%)、信金・信組(二三・〇%)、郵便局(八・〇%)、銀行(一〇・三%)、農協(七・九%)の順となっている。

・また、漁業経営者・従事者では、但馬海区五〇・六%、淡路海区二四・六%、播磨海区一三・二%の順で、それぞれ海区別の特色が見えてくる。

・以上預貯金について、それぞれの海区別に金融機関利用の特色を見ていく。

・播磨海区は、銀行(一三・〇%)、信金・信組(一〇・三%)、農協(六・二%)、郵便局(一・三%)、その他(一・三%)の割合である。内容的には、前回同様、家高町及び三原郡の周辺地域が高利用率を示しているが、その他の地域では、五〇%前後の漁協が大半を占めている。

・但馬海区は、銀行(一四・二%)、郵便局(一・六%)、農協(一・〇%)、信金・信組(一・〇%)、その他(一・〇%)、相互銀行(二・四%)の順となっている。

・淡路海区は、相互銀行(二四・七%)、信金・信組(二三・〇%)、郵便局(八・〇%)、銀行(一〇・三%)、農協(七・九%)の順となっている。

・また、漁業経営者・従事者では、但馬海区五〇・六%、淡路海区二四・六%、播磨海区一三・二%の順で、それぞれ海区別の特色が見えてくる。

・以上預貯金について、それぞれの海区別に金融機関利用の特色を見ていく。

1月末実績 漁協貯金月報
 37,738百万円

全国漁協速報値

残高	前月対比	前年同月
14,012	△2.9%	3.9%

昭和59年1月末の漁協貯金残高は377億円で前年同月対比3.6%の増加となっております。しかし58年3月末対比では19億円(△4.9%)の減少であり、年度末(目標額423億円)まで46億円の増加が必要であります。このような状況の中で年度末特別運動を現在展開中ですが、本年度目標達成に向けて各漁協におかれまして、役職員をはじめ関係者の皆様のご苦勞が多いと存じますが、従来以上に強力な運動を展開されますようお願い申し上げます。

海区別平均利用率は、播磨海区八・三%、淡路海区二・三%、但馬海区七・四%の分布で、県平均利用率は一・二%を示している。

・この数値は、前回比一・〇%台が六組合、一・〇%台が六組合と相変わらず多く、なかでも漁協利用率を上廻っている組合は、二組合あり、銀行の個別勧誘攻勢の激しさを示している。

・相互銀行利用状況
 県下平均利用率は、金融機関中最低の四・六%ではあるが、前回より〇・八%増加している。

・海区別にみると、播磨海区は五・八%、淡路海区は一・二%、但馬海区は一・〇%の割合である。内容的には、前回同様、家高町及び三原郡の周辺地域が高利用率を示しているが、その他の地域では、五〇%前後の漁協が大半を占めている。

漁協が八組合も見上げられる。特に淡路海区においては二〇・三〇%台が六組合、一〇%台が八組合を占めているのが特筆される。今後、系統外呼び戻し方策について万全の対処を望みたい。

・農協利用状況
 県下平均利用率は、六・九%で前回比〇・三%の増加である。海区別では、播磨海区四・一%、淡路海区七・九%、但馬海区六・九%の分布で、県平均利用率は六・二%を示している。

・郵便局利用状況
 県下平均利用率は、一・三%で前回比〇・一%の増加である。海区別では、播磨海区一・三%、淡路海区一・三%、但馬海区一・三%の分布で、県平均利用率は一・三%を示している。

[1月末実績37,738百万円]

	56年度	57年度	前月対比
	同月対比	同月対比	
残高	34,784	36,424	37,001
増額増進率	3,004	1,314	737
伸び率	8.5%	3.6%	2.0%

郵便局利用状況
 県下平均利用率は一・三%を示しており、この海区別内訳は、播磨海区一・三%、淡路海区一・三%、但馬海区一・三%の分布で、県平均利用率は一・三%を示している。

・また、漁業経営者・従事者では、但馬海区五〇・六%、淡路海区二四・六%、播磨海区一三・二%の順で、それぞれ海区別の特色が見えてくる。

・以上預貯金について、それぞれの海区別に金融機関利用の特色を見ていく。

実用化へ一歩

森式べたばし装置(海上干出装置)

ノリ木取中の網干出は、アカグサレや付着珪藻などの防除に役立つことが知られている。しかし、浮流し養殖法では、網を取りはずし陸上干出するか、再冷凍法で代用するなどの干出操作を行なうため大変な労力負担となり、本法の問題点の一つとなっていた。

委員が中心となり干出装置の改良、実用化試験に取組んできた。この努力が、このほど「森式べたばし装置」として実を結んだ。この装置は、本県他地区の浮流し漁場でも適用できると考えられるので、概要を紹介したい。

本装置の構造と使用方法

干出装置の構造
装置の本体は塩化ビニール製パイプで、横が約二m(アパ網の間隔)、縦が約一・五mで、ジョイント部分で三本に分解できる。なお、縦パイプには上端にアパ網をかけるフックと、下部にトワイ

ンに固定する切込みがあり、また下部に海面に浮上させる発泡スチロールの浮子が付いている。ノリ網干出操作方法として、三本に分解された本装置を箱船に積んで網の上から、アパ網の下に通して、トワインに縦パイプの下端を固定し、上端のフックにアパ網をかける。次に、ジョイントに横パイプをはめ込んで装置を安定させる。

以上のようにして図1のように一網に約六組の網をおきに固定してやる。網干出終了後、再び網の上から本装置を三本に分解して、箱船に収納する。

現在、森漁場では図1のようにならべて二枚ずつで試験を行なっている。ノリ網五枚、張区画で二枚に干出装置を六組ずつ計一組として、セツト全体で一〇枚の網に装置を取付けているので合計六〇組を使用している。

昭和五十九年二月六日の調査例では、葉長三〇cmの二回摘採後の普通の芽付の網が張込まれたが、水分を多く含んでいるため十分に浮上してはいなかった。干出装置の取付けは午前十一時から始まり、途中中風のため二、三時二〇分には作業を終了した。取付け後、網が水分を多く含んでいるため十分に浮上してはいなかった。干出装置の取付けは午前十一時から始まり、途中中風のため二、三時二〇分には作業を終了した。取付け後、網が水分を多く含んでいるため十分に浮上してはいなかった。干出装置の取付けは午前十一時から始まり、途中中風のため二、三時二〇分には作業を終了した。取付け後、網が水分を多く含んでいるため十分に浮上してはいなかった。

現在、森漁場では図1のようにならべて二枚ずつで試験を行なっている。ノリ網五枚、張区画で二枚に干出装置を六組ずつ計一組として、セツト全体で一〇枚の網に装置を取付けているので合計六〇組を使用している。

昭和五十九年二月六日の調査例では、葉長三〇cmの二回摘採後の普通の芽付の網が張込まれたが、水分を多く含んでいるため十分に浮上してはいなかった。干出装置の取付けは午前十一時から始まり、途中中風のため二、三時二〇分には作業を終了した。取付け後、網が水分を多く含んでいるため十分に浮上してはいなかった。

昭和五十九年二月六日の調査例では、葉長三〇cmの二回摘採後の普通の芽付の網が張込まれたが、水分を多く含んでいるため十分に浮上してはいなかった。干出装置の取付けは午前十一時から始まり、途中中風のため二、三時二〇分には作業を終了した。取付け後、網が水分を多く含んでいるため十分に浮上してはいなかった。

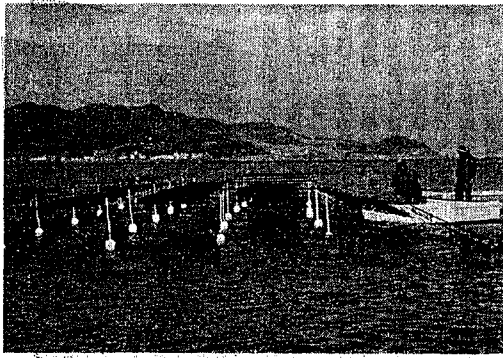
昭和五十九年二月六日の調査例では、葉長三〇cmの二回摘採後の普通の芽付の網が張込まれたが、水分を多く含んでいるため十分に浮上してはいなかった。干出装置の取付けは午前十一時から始まり、途中中風のため二、三時二〇分には作業を終了した。取付け後、網が水分を多く含んでいるため十分に浮上してはいなかった。

次に作業は二人で、網二十五枚当り干出が約一時間、取りはずしが約三十分である。従来、従来の方法に比較し省力化できる。また、任意の時間に干出作業が可能であるなどの点が長所としてあげられる。

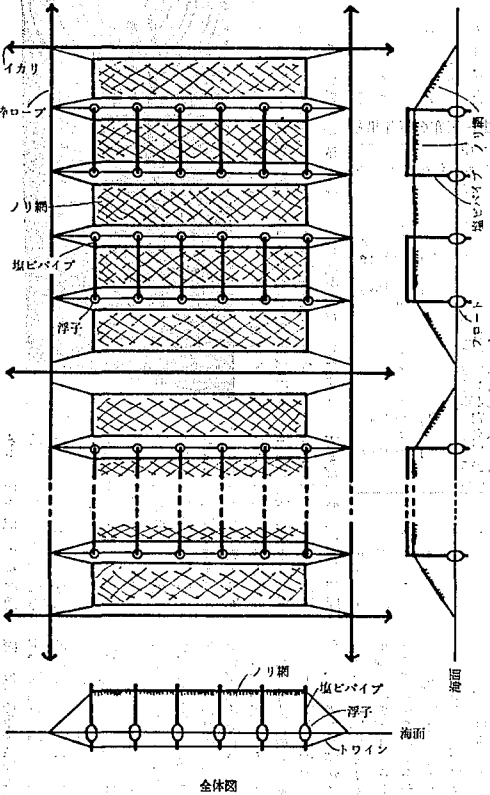
なお、波根の高い時に作業がやや困難であり、また、装置をトワインに固定する時に時間がかかるなど、今後改良しなげられる。

また、装置をトワインに固定する時に時間がかかるなど、今後改良しなげられる。

水試藻類増殖研究室(山内、長浜)



森式べたばし装置の試験状況(干出中のノリ網)



図一 森式べたばし装置(海上干出装置)全体図

上記の結果から、まず本装置は構造が比較的簡単で、経費も安価であることが上げられる。

普及だより
一歩前進、由良のアワビ種苗生産

由良地区潜水漁業協会(北川田会長)は昭和五十三年からアワビの中間育成と放流事業を行ってきた。アワビの種苗は県立水産試験場や但馬水産事務所で生産されたものをいただいたり、他県で生産されたものを購入して入手してきた。しかし、その数には限りがあるため、協会自らの手でアワビの種苗を生産して、より多数のアワビの稚貝を放流したいという気運が盛り上がり、昭和五十六年から「アワビの種苗生産試験」に取り組んで来ましたが、なかなかうまくいきませんでした。そこで、昭和五十八年度には「技術交流事業」

として但馬水産事務所試験研究室で行っているアワビの種苗生産技術を実習し、潜水協会のアワビ中間育成場においても併行試験を実施することになりました。

昭和五十八年十二月六日から八日の日程で、但馬水産事務所試験研究室において、アワビの種苗生産技術を実習しました。その際アワビの稚化幼生一二〇匹をいたでいて帰り、アワビ中間育成場において、プラスチック製なみ板(45cm×45cm)一五〇枚に幼生を付着させ、飼育試験に取り組みました。昭和五十九年三月一日現在二、四歳のアワビ稚貝約千個が生残しております。

なお、地元採苗について

アワビ種苗生産を実習する部員

表1 森漁場調査結果(昭和59年2月6日)

水産名	網	葉長	観察異常	結果	備考
A	地種	約15cm	±	±	±
B	地種	約5cm	±	±	±
C	地種	約10cm	±	±	±
利平	地種	約5cm	±	±	±
利平	地種	約20~30cm	±	±	±

※観察基準
±: 観察基準
下: 観察基準未満
上: 観察基準超過
注: ±: 少ない、±: 有り、±: 多い、±: 非常に多い。



干出装置の全景

栽培漁業協会

20周年にあたって

昭和三十八年四月、瀬戸内海栽培漁業協会が設立されて、昨年がちょうど二十周年にあたり、一つの大きな節目として、栽培漁業の二十年を振り返ってその足跡を冷静に見つめ、更に今後の展望を確かなものとする基礎固めをしようということになり、先刻「日本栽培漁業協会二十年史」を記念出版いたしました。二十年の歩みについては、これを参照していただくこととし、この紙面ではごくさわりの部分に触れてみたいと思っております。

昭和三十年代の後半を振り返りますと、日本経済は高度成長時代に入り、特に瀬戸内海においては魚介類の産卵場・稚子の棲息場として重要な役割を果たしてきた干潟や藻場が、埋立により次々に壊滅し、更に埋立地に進出してきた各種工場

排水や、家庭廃水、農業の無秩序な流出によって沿岸域の汚染が激しく進み、沿岸漁業の中でも特に中高級魚が急速に減少して沿岸漁業は不振にあえいでおりました。

この打開策として考えられたのが「栽培漁業」という全く新しい漁業の仕組みです。即ち、有用魚介類の稚魚を人工的に生産し、これを自然界に放流してこの資源を漁民の手で管理し、最終的には計画生産に結びつけようという、二十年前としては実に破天荒な、夢物語に近いものとして世間から冷たく迎えられたものでした。

昭和三十七年度予算に、瀬戸内海栽培漁業センターの建設予算が計上され香川県の屋島と愛媛県の伯方島に事業場が建設され、翌三十八年から事業が開始される運びとなり

また、その運営の母体として水産庁の指導の下に、和歌山県から大分県に至る十二府県と、県漁連を会員とする「社団法人瀬戸内海栽培漁業協会」が設立され、会長に当時の金井兵庫県知事、副会長に当時の三浦兵庫県漁連会長に就任いただき、本部事務所を神戸におき、新発足したのでした。そしてこの体制は、坂井知事、山田漁連会長に引継がれて、昭和五十四年の日本栽培漁業協会に改組されるまで踏襲され、兵庫県の皆瀬方とは、特に深いおつきあいを頂いて今日に至ったのであります。

発足当時の栽培漁業技術は、まだ実験室の域を出ない初歩の時代で、ダイに代表される親魚養成に自然産卵技術の開発、シオミツツボワムシの発見とその培養技術の開発、小型水槽から大型水槽へ移行した種苗生産技術の開発等々僅か二十年で、よくここまで進りつづいたものと発足当時の関係者の手探りの御苦労に敬意を表する次第です。

このように栽培漁業の技術開発が進み、放流の効果事例が除々に顕在化する中で、瀬戸内海以外の海域にも栽培漁業を取り入れる気運が高まり、昭和四十八年度から国の高率補助による県営栽培漁業センターの設置が進められた。兵庫県においても五十四年から五十六年までの三年事業により、明石市二見に県営栽培漁業センターが建設せられ、五十七年に発足いたしました。

これらと時を同じくして、瀬戸内海栽培漁業協会も全国域への栽培漁業の展開に備えて、昭和五十四年七月、日本栽培漁業協会へと発展的に改組して今日に至ったのであります。

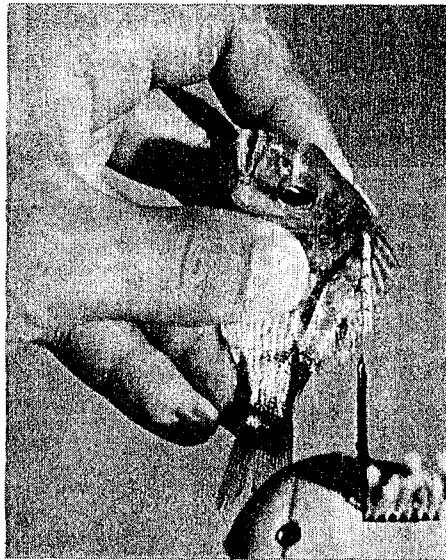
以上のような経過を経て、栽培漁業は二十才を迎えたわけですが、種苗の量産体制も除々と整い、放流効果も魚種により又地域により好事例が出現するのをふまえて、従来の「県主導型」の栽培漁業から「漁民参加の栽培漁業」への転換を図るべく、昨年六月沿岸漁場整備開発法の一部改正が行われ、栽培漁業振興の目的に、①国がその基本方針を定め、②県がその基本計画を策定すると共に、③放流効果実証事業を制度的に行うことを三本の柱とする制度の仕組みが法制化されました。

この内容については、「拓水」の十二月・二月号で、県水産課から解説されておりますのでここでは説明を省きますが、皆さん方へ一番関係の深いのが、③の実証事業だと思っております。この事業は「放流による漁獲量の増を、経済効果の面で実証する」と共に、その成果を漁業協同組合等に普及させる事業（と定義づけられ）ており、栽培漁業が事業化に入る一歩手前の段階と云えます。

県知事の指定する民法法人が、この事業の実施主体となりますが、要は、この団体が、漁業者・系統団体等を構成員とすると共に、常に漁業者との意志疎通が十分図られる組織であることが肝要です。

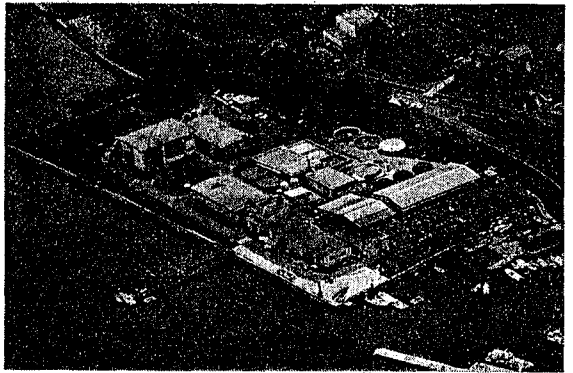
放流した魚が海に入ってから、漁業管理、漁場管理は、現実的には地先の漁業者の手によって行われるのが一番よいので、そして、この事業が、名実共に漁業者のため、漁業者による栽培漁業に定着する日の一日も早からんことを念願し、明日の明るい瀬戸内海を期待して筆をおきます。

(社)日本栽培漁業協会
常務理事 屋代 勝敏



標識をつけたマダイ

漁業者年金で備えよう
さあスタートゆとりある老後へ



栽培漁業センター第1号(島野町)

大阪湾北西部(明石浦)				
小型底びき網	20	メイタガレイ	30	2,000~4,500
		マコガレイ	10	1,000~1,800
		アイナメ	7~10	1,600~25,000
		アマコ	10~15	800~1,300
		ダイコチ	40~50	100~250
鳴門海峡・紀伊水道(福良)				
小型底びき網	9	クロウシ	15	1,000
		ゴシ	8	1,000
		コダレイ	3	200~800
	11	オマ	2	4,500
		マ	2	1,250
		マ	2	2,200
		ク	3	3,000
		カ	15	1,000
		カ	10	800
		マ	10	1,300
メ	4	3,500		
		メ	2,500	
		メ	1,000	
船びき網	11	サヨリ	25~30	1,000~1,400
一本釣	55	マダイ(浮)	7~10	2,200~3,000
刺網	3	マシ	20	2,200
		ロイ	3~4	400
		イチ	3~5	500
突	10(昼)	ナ	1~2	1,000
		ナ	2~3	500
		マ	2~3	2,000~3,000
棒	10(夜)	ア	30	2,000~3,000
		ウ	2~3	1,150

【お詫び】 紙面の都合により各地漁況中、紀伊水道(福良)およびイカナゴ予測の一部は割愛しました。

刺網	17	キ	20	1,600
		カ	3	2,000
		マ	3	1,700
延	3	キ	18	2,000
		ハ	10	1,000
		マ	30	2,300
網	10	マ	30	2,300
		ア	30	2,300
タコ壺	1	マ	25	1,720
		ダ	25	1,720
一本釣	30	カ	6	2,300
		サ	6	2,300
		ゴ	6	2,300
棒	7	メ	10	2,000
		バ	10	2,000
突	2	ワ	50	250
		カ	50	250

明石海峡・播磨灘東部(明石浦)				
漁種	隻・総数	主魚種	1隻日平均	
			漁獲量(kg)	価格(円)
小型底びき網	20	メイタガレイ	20	2,000~4,500
		マコガレイ	10	1,000~1,800
		アイナメ	7~8	1,600~2,500
	5	アマコ	10~20	800~1,300
		ダイコチ	40~50	100~250
		コイチ	700~1,000	100~200
一本釣	10	イイダコ(雄)	50~60	1,800~2,200
		イイダコ(雌)	50~60	500~700
		イカナゴ(フルセ)	200~300	290
延	6	マコガレイ	40~50	1,300~2,500

2月の海況

大阪湾北西部(淡路町)				
小型底びき網	10	カ	30~50	1,600~1,800
		サ	4~6	1,900~2,000
	35	イ	20~25	2,000~2,500
		シ	10~15	300~400
船びき網	15	イ	50~80	300~400
		カ	50~80	300~400
一本釣	29	イ	50~70	670~710
		カ	50~70	670~710
一本釣	34	ア	5~6	2,300~2,400
		イ	1~2	2,600~2,700
		メ	1~2	3,000~3,100
延	2	キ	10~15	3,000~3,300
		ス	10~15	3,000~3,300
網	3	マ	15~20	1,700~1,800
		コ	15~20	1,700~1,800
		ガ	15~20	1,700~1,800
タコ壺	2	マ	10~15	1,300~1,500
		ダ	10~15	1,300~1,500
		コ	10~15	1,300~1,500
突	6	ア	10~15	3,000~4,000
		ワ	10~15	3,000~4,000
友ヶ島水道周辺(由良漁連)				
小型底びき網	10	マ	22	4,500
		ダ	22	4,500
	25	ア	35	1,140
		カ	10	1,000
		シ	10	1,000
40	マ	ア	5	2,000
		カ	5	2,000
	10	イ	8	1,300
		ナ	3	1,500
		メ	3	300

第1回の栽培漁業技術研修会を 提揮漁青連が赤穂で



講演する水試の伊丹場長

昭和59年2月17日から18日にかけて、まわりの一面銀世界に雪化粧した赤穂御前において、提揮地区漁業技術研修会が、盛況で行なわれた。

当日は、悪天候にもかかわらず、神戸市から赤穂市にかけて約40名の青壮年部員が参加し、日頃聞きなれない言葉も、熱心に耳を傾けていた。

本研修会の目的は、漁場環境の悪化や、乱獲により減少した漁業資源の回復をめざし、最先端の技術や栽培漁業の方向性をつまみ、日々の活動に活かしていこうとするものである。

講演は、兵庫県立水産試験場長・伊丹宏三氏の特別講演を皮切りに、4課題が終了した。研修日程を終え、当日のプログラムから内容をひろってみると、水産業界におけるバイオテクノロジーの応用と将来の展望について、兵庫県立水産試験場長 伊丹宏三氏

(内容) 近年實に脚光を浴びているバイオテクノロジーの概要から、応用テクノロジーに致る広範囲な説明が行われた。その中で、特に水産業界においては、ヒラメの雌性発生、ノリの新品種の開発、耐病性魚種の開発、フェロモン(ホルモン)生産が、特筆される技術として注目されている。種苗生産の現状について、兵庫県栽培漁業センター(中本幸一氏)を中心に行なわれている種苗生産の現状を講演した。伊丹宏三氏

番組のお知らせ

船員の広場
放送時間 8:30~8:40
周波数 3.92.5、6.0.5、9.5.9.5
KHZ
3月15日 健康検査
22日 工作機械等による災害
29日 冷凍作業における災害
◎海の安全メモ
放送時間

◎こちら海です(放送予定)
毎週日曜日、正午よりサンテレビ放送中
3月11日 和歌山湯浅町(テーマ) 春を呼ぶ湯浅の白魚漁

◎渡辺文雄のふるさと探訪(3月24日、テレビ大阪放送)
ロケにおともして

二月に入ると、この土地独特のシロウオ組の準備期間となる。この漁船にはシロウオ組合があり、多い時には二十名ぐらいいる。体長三、四mのシロウオという珍しい魚に、取りかかるとの姿を紹介した。

戦後の混乱と復興 (一) 3

さて始発列車の時刻が来た。沢田君に厚く礼を述べて、いよいよ郷里へ最後の列車に乗った。浜坂あたりで夜が明け、ちょうどその頃、少い豊岡中学校、同窓会、同窓会など現在の高校クラス通学する生徒が各駅から乗り込んでくる。車内は寒く外はチラー雪の舞う厳冬風景。しかし自分は郷里の土を踏み、香住を過ぎ、柴山港をチャット垣間見ると、もう、列車は佐津駅に着いた。二年六月の夢にのみ見つけた郷里の土を踏んだときは、在世上陸のときとは、一味異なる感概であった。電報は届いたとみえ父がホームで待っていた。リュックを自転車にくりつけ四脚の

漁協一代(その十五) 作花英治

支那派進軍所屬 元陸軍兵長 作花英治 二月五日佐津保上陸 六日復員召集解除 日帰村致した。 此致意に申告致し ます。

自分にとって終生鮮烈に頭に焼きついて忘れることのできない、以後見聞する敗戦の姿に「どうせ死ぬと覚悟していた身だ。一丁死んだつもりで復員に全力を尽くす」ととフアイトを湧き立たせた端緒は実にこの復員船の感激にあつたのであつた。浦上

昭和二十一年二月八日 右 作花 英治 佐津村 永田 博殿

昨年十二月二十九日 渡辺文雄さんがふるさと探訪の取材のために淡路島にいられた。森漁協のロケがあつた。おともしました。

渡辺文雄のふるさと探訪(3月24日、テレビ大阪放送)

渡辺先生はインテリタレントというところ、最初は緊張していましたが、お人柄のよさで、すっかり打ちとけて、たのしいロケをお手こずりました。

まず、開口一番、海をみせて下さいということ、森吉一組合長と一緒にご案内しました。青い広い海でセツトに浮ぶノリ網をみられ、びっくりされ「杭のない養殖が行なわれていたんですね」と先ず感動され、次に機械化された摘採、加工にもすっかり驚かれた様子でした。また、種網も人工採苗が普及され、自給体制を築いている様子も初めてのことでした。

いすゞ マリンエンジン UM06BB1B

高速への挑戦!

特長
1. 小型、軽量、高出力
2. 卓越した耐久性、信頼性

神戸いすゞ自動車株式会社 〒658 神戸市東灘区住吉浜町17 TEL (078) 811-1171

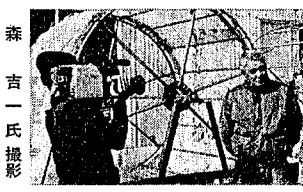
曳力抜群! ヤンマー-伝統の底力!

内海船曳35馬力適合機関 4HA35

水産庁基準適合 低燃費機関

ヤンマー-ディーゼル

ヤンマー-ディーゼル株式会社



森吉一氏撮影